



健やか豆知識

第4回



Q. ADHDでよくみられるのは次のうちどれでしょう。

- I 緊張するとお腹が痛くなる
- II 咳や痰が出て息切れがする
- III じっと座ってられない



タカちゃん

ADHDの子どもは、ほめて伸ばそう!

ADHDとは注意欠如・多動症(Attention Deficit Hyperactivity Disorder)の略語で、不注意、多動性、衝動性の3症状を中心とした発達障害の一つです。典型的な行動は「忘れ物が非常に多い」「じっと座ってられない」「順番が待てない」などで、そのような行動が普段の生活の妨げになることが知られています。

ADHDの場合、落ち着きがないのは決して親のしつけや育て方の問題ではなく、前頭葉などの脳の機能に障害があると考えられています。

ADHDの治療では、周りの人に病気をよく理解してもらうことが一番大切です。症状に対して「どうしてじっとしてられないの」などと叱られたり怒られたりしているうちに、「どうせ怒られる」「また失敗するからやらない」と考えるようになり、萎縮して自己評価が低い子どもになってしまうのです。

そこで、どのような声かけをすればいいのか、親同士で学ぶ「ペアレント・トレーニング」というプログラムを含めて、医療機関、役所や教育機関、療育センター、児童相談所などがさまざまな相談窓口となっています。そのほか、物がたくさん置いてあると気が散りやすいので、部屋を片付けて目からの刺激を減らすといった環境整備も大切です。こうした対応をした上で、必要最低限な薬物治療も考えます。

症状は学童期がピークで、成長するに従い軽減していきます。「忘れっぽいけど、これだけはできる」という自信が持てる何かを学童期にみつけ、ほめて得意なものを伸ばしていくとよいでしょう。

監修 宇佐美 政英

国立国際医療研究センター国府台病院
子どものこころ総合診療センター長 児童精神科診療科長

< III 搦工 >

高田製薬株式会社

〒336-8666 埼玉県さいたま市南区沼影1丁目11-1

高田製薬

www.takata-seiyaku.co.jp

さらに詳しい情報は
ホームページで!

⇒さらに詳しい情報は「クイズ解説」をご覧ください